【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	堺市立大仙西小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	養護学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	２３
児童数	５２	４８	４２	４８	５３	４８	６	３０７	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「 人間っていいな つくろう自分 生きようともに 」
－ 自立と共生の教育創造 －

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・１年生ー４年生・算数

できる喜びや学ぶことの楽しさを味わうことが比較的容易である。

・全学年・国語

言語の力は学力向上の要である。しかし、本校児童の実態として言語能力の不十分さがみられる。実態にあった指導法での言語能力の改善をめざしたい。

(2) 年次ごとの計画

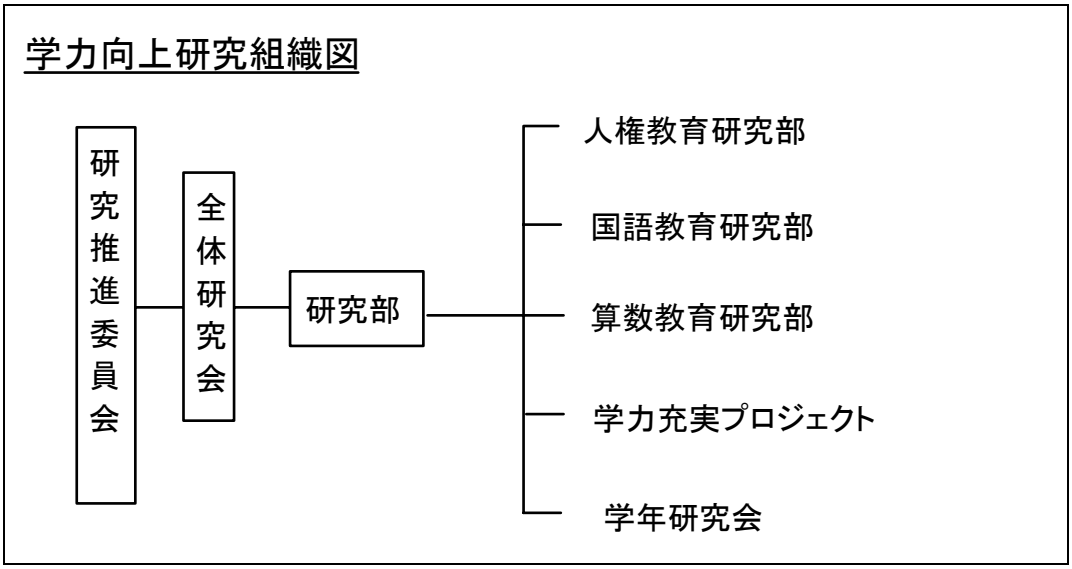
平成14年度	未実施

平成15年度	○　テーマ **「 人間っていいな つくろう自分 生きようともに 」** **－ 自立と共生の教育創造 －** **分かり合い、学び合う力の育成をめざして** ○　研究の見通し 本校がこれまでに進めてきた算数科に加え、新たな課題として言語能力の獲得をめざした研究をすすめる。また、児童の発達段階を考慮した指導システムを導入する。 ○　研究の内容・方法 ・ 算数科については、 ① 「考える場」「学んだことを生かす場」「学び合う場」を設定し、個と集団の問題解決による学力向上を図る。 ② 個に応じた学習指導について工夫し、一人一人の学力の向上を図る。 ③ 家庭との連携を図り、家庭の教育力の向上を図る。 ・ 国語科については、 ① 説明文を通して、伝え合い、学び合うスキルを育てる。 ② モデル学習、音読、暗唱、読書指導、さらにワークの工夫による個に応じた指導などを通して、「書く力」を中心に言葉の力を育てる。

平成16年度	○　テーマ **「 人間っていいな つくろう自分 生きようともに 」** **－ 自立と共生の教育創造 －** **分かり合い、学び合う力の育成をめざして** ○　研究の見通し 国語と算数を２本柱に、分かり合いや学び合いのできる能力を育成し、学力向上を図る。 ○　研究の内容・方法 ・ 国語科については、 ①思考するための言葉の獲得に焦点を当てる。 子どもにわかりやすいモデル学習とワークの開発を進める。 ②国語科のミニマムエッセンシャルズをもとに学習内容を整理した上で、家庭と連携した取り組みをすすめる。 ○　算数については、これまでの取り組みに個に応じた教材の開発を加えながら研究を深める。

＊　平成１５年度からの新規校については、平成１５、１６年度の計画について記入すること。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

算数

・ 学習活動の基本を児童の問題解決に置き、「考える場」「学んだことを生かす場」「学び合う場」を踏まえた指導方法を日常の授業で実践することができた。その結果、算数について「楽しい」「やや楽しい」とする児童が８０％を超えた。

・ 家庭学習講座や家庭学習ハンドブックを活用し、家庭学習の習慣化にむけた取り組みができた。

国語

・ 説明文のモデル学習（内容理解とともに伝えることのスキルを学ぶ学習）を全学年で実践できた。

・ モデル学習とワークの活用により、子どもたちが書くことのイメージを持ちやすくなり、書くことを厭わないようになってきた。また、評価のポイントを子どもが理解した上で学習することができた。

２．今後の課題

モデル学習の実践を一層進めることが重要である。しかし、多くの児童について、学習したことが定着しにくいという課題については、現状では解決できていない。学習が定着しない原因について、これまでは繰り返す回数の不足と捉えてきた。短期記憶が長期記憶になるための要件として、「理解」ということをキーワードにして研究をすすめる。特に、思考のための言語を中心にモデル学習の手法を使い、考えるためのトレーニングを行うようにする。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

学力実態テストの実施

第１学年（４月、１０月、２月）

第２学年ー第６学年（１０月、２月））

内容は、算数（スキル・・・年２回、思考力・・・２月）

国語（漢字、文章読解・・・２月）

学習への自己評価

毎時間、児童自身が学習を振り返る自己評価の取り組みを実施

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１．第１回泉北・泉南学力向上推進協議会（平成１５年６月１３日）授業公開および取り組みの報告
２、近畿数学教育研究会において実践発表
３．**教育実践集録を作成し、堺市全学校園に配布**
４．学校訪問の受け入れ（堺市内はもとより大阪および鳥取県より視察研修

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　□ 少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　□国語　□社会　□算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□ 家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　有　無